

会長挨拶

皆様、こんにちは。矢野 智子前会長の後任として、全国小学校英語教育実践研究会(全小英研)の2021年度会長を拝命しました佐賀県伊万里市立立花小学校の宗 誠と申します。全小英研会員の皆様、そして小学校外国語教育に携わる全ての皆様のご協力をいただきながら、本会の発展に尽力いたしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

1992年に大阪の2校が研究開発学校の指定を受け、その後徐々に広がりを見せてきた小学校英語の取り組みは、2002年度に総合的な学習の時間が新設されてからは、「国際理解教育の一環としての英語活動」として多くの学校で実施されるようになりました。本会が発足したのが2004年度ですから、ちょうど英語活動が盛り上がりを見せ始めたころということになります。

その後、2009年度に「英語ノート」が全国の小学校に配布され、2011年度からは「外国語活動」として5・6年生で年間35単位時間の授業が必須となりました。さらに、2020年度からは5・6年生で教科としての外国語科がスタートし、3・4年生で外国語活動が実施されることとなりました。まさに、点として始まった小学校英語は、その後、線としてつながり、やがて面としての広がりが見られるようになってきたと言えるでしょう。

現在は、それぞれの学校で、文部科学省から配布される“Let's try!”や各教科書会社から発行された教科書を使って授業が行われています。その一方で、小学校教員のうち、中・高の英語免許状を取得している者は5.9%しかいません(2018年度「英語教育実施状況調査」)。ですから、始まったばかりの教科としての授業に戸惑いのある先生も多いことでしょう。そんな中にも、それぞれの学校で、「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」(文部科学省)や「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(国立教育政策研究所)などを参考にしながら、先生方で知恵を絞り、創意工夫をして、言語活動の充実、指導と評価の一体化を目指した授業づくりを行っておられることだと思います。

本会立ち上げに中心となって尽力された現文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子先生は、本会の名称に「実践」という言葉をぜひ入れたいという思いを強く持ち、「全国小学校英語活動実践研究会」と命名されました(現在は「全国小学校英語教育実践研究会」に改称)。「実践」の言葉が示すとおり、私たちは、理論とともに授業実践を通して、授業改善を進めていく必要があります。

これまで、京都市をはじめとした全国各地で年に1回の「実践研究大会」が開催され、多くの先生方と授業のノウハウをシェアしてきました。2020年度は、新型コロナの影響で東京大会が延期となりましたが、その中にもリモート大会を開催し、実践事例を共有することができました。

2022年1月には、1年延期された第17回全国小学校英語教育実践研究大会・東京大会が予定されています。全国から多くの先生方にご参集いただき、一緒に「実践」を通して小学校外国語教育を創り上げていけることを願っております。

2021年9月

全国小学校英語教育実践研究会
会長 宗 誠
(佐賀県伊万里市立立花小学校校長)